

## 「現場からの報告」投稿要領

### 1. 主旨

現場の読者の皆様に施設協会誌をより身近に感じていただけるように、読者から投稿された報告を掲載します。掲載する内容は、これまでの内容（論文、報告等）にとらわれない形とします。

### 2. 内容

現場の概要と業務紹介、事故防止、工法の工夫、技術開発、人材育成、現場での苦労話、地元との繋がり事例、現場の一日を紹介等

### 3. 執筆者

鉄道会社及び協力会社等の現場社員（年齢不問）または団体

### 4. 文字数 1 ページ（小見出しは最大 3 つまで、写真も入れて 1,200 文字程度）

### 5. 写真

- ・ご執筆者の顔写真および現場等の報告内容がわかるもの
- ・ご執筆者本人の写真は証明書風でなく、現場でのスナップ写真等を使用。  
（事務所等の団体での執筆の場合は集合写真も可能）

### 6. 執筆者の情報

- ・本人のパーソナルな情報（職場、職名、氏名、年齢、趣味、モットー…）
- ・事務所等の団体での執筆の場合は（業務概要、職場のモットー…）

### 7. 原稿仕上がりのイメージ

- ・添付資料参照（1 月掲載見本）

### 8. 投稿方法

- ・インターネットを通して協会事務局にご投稿（件名を「現場からの報告」としてください）
- ・協会ホームページのお問い合わせからメールをお送りください。 [info@jrcea.or.jp](mailto:info@jrcea.or.jp)

### 9. 査読者 担当部署（担当委員）、事務局

### 10. 掲載の有無

- ・投稿原稿については編集委員等により内容の審査確認等をさせていただきます。
- ・審査確認等の結果、掲載を取りやめる場合もあります。ご了承ください。
- ・掲載しない原稿については確認結果および謝礼（図書カード）をつけてお戻しします。

### 11. 次頁以降の執筆者記入表等もご確認いただき、ご投稿の際には併せてお送りください。

以上



シーエヌ建設(株)

名古屋第一工事所 技術係主任 塚由 彬斗 (31歳)

趣味 : 登山、読書

モットー : 何事も相手の気持ちになって考える

## 1. 体感訓練とは

当社では、安全に作業を行うためには作業員ひとりひとりが危険に対する感性を高めなければならないと考え、感性を高める取り組みとして“体感訓練”を行っています。体感訓練とは、実作業に近いよりリアルな体験を通して事故の怖さを知り、事故防止につなげるもので、平成26年度から導入し、毎月新幹線土木工事に関わる作業員を対象に平均80人規模で実施しています。

## 2. 取組み内容と工夫

取組み内容の一例は以下のとおりです。

保護メガネの重要性から「鉄粉飛散の見える化」を目的とし、ゼリーを模擬眼球に見立て、ディスクサンダーで鉄筋を切断した際の鉄粉をゼリーに付着させました。ゼリーの中まで入り込んだ鉄粉もあり、作業員からは「こんなに中まで入るのか」と驚きの声があがりました。また付着した鉄粉の洗い流しも行い、洗い水で眼を洗浄した際の状態も実演しました。



作業員が実際に「自分でやる、見る」とともに、実作業に直結する「リアル」な内容にすることで、より「怖さ」を知ることができます。怖さを知ること、危険を回避する行動に繋がれると考え、様々な視点から毎月の実施内容を決定しています。また電動工具の取扱い訓練等

では、チーム対抗で時間を競い、組立てるといった「ゲーム性」も取り入れています。このように参加意欲が向上する工夫を行っています。



## 3. 得られた成果と今後の取組み

当日は工事を止め、作業員全員を集めるため「集まってくれる作業員に中途半端な内容は見せられない」と担当月の社員は奮闘して準備をしています。周りの社員もアドバイスを送るなど社員全員が事故防止に取り組む気持ちが高まりました。

また体感訓練で実施した内容と同作業の現場があった際、作業員が私の顔を見ながら「保護メガネ ヨシ!」の声をあげ、着用して鋼板切断作業を行っていました。それを見て作業員の自発的な事故防止が着実に浸透しているなど感じ、体感訓練を続けてきた甲斐があったと感じました。

体感訓練は事故防止の非常に有効な手段と思います。実施には「実作業に繋がるリアル感」と「作業員の参加意欲」に注意を払うことが重要と考えています。これからも体感訓練を活用した事故防止により、無事故を継続してまいります。

\* 日々、頑張る現場の“声”を投稿してみませんか。投稿方法、執筆要領は協会ホームページに掲載しています。多くの投稿をお待ちしています。